

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/07/19

利上げ・利下げ観測が入り交じる

| 通貨ペア | 基調 | | ページ数 |
|-----------------------|--------------|---------------------------------------------|-------|
| <u>豪ドル/円</u> | ↓ | 一部で利下げ観測が浮上 予想レンジ: 82.10 ~ 85.60 円 | 2 - 3 |
| <u>NZドル/円</u> | ↑ | 年内の利上げ観測が浮上 予想レンジ: 66.10 ~ 68.60 円 | 4 - 5 |
| <u>ランド/円</u> | ↓ | SARBは据え置き予想、声明に注目 予想レンジ: 11.10 ~ 11.60 円 | 6 - 7 |
| <u>経済指標 カレンダー</u> | 一週間の予定を一覧で表示 | | 8 - 9 |

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします

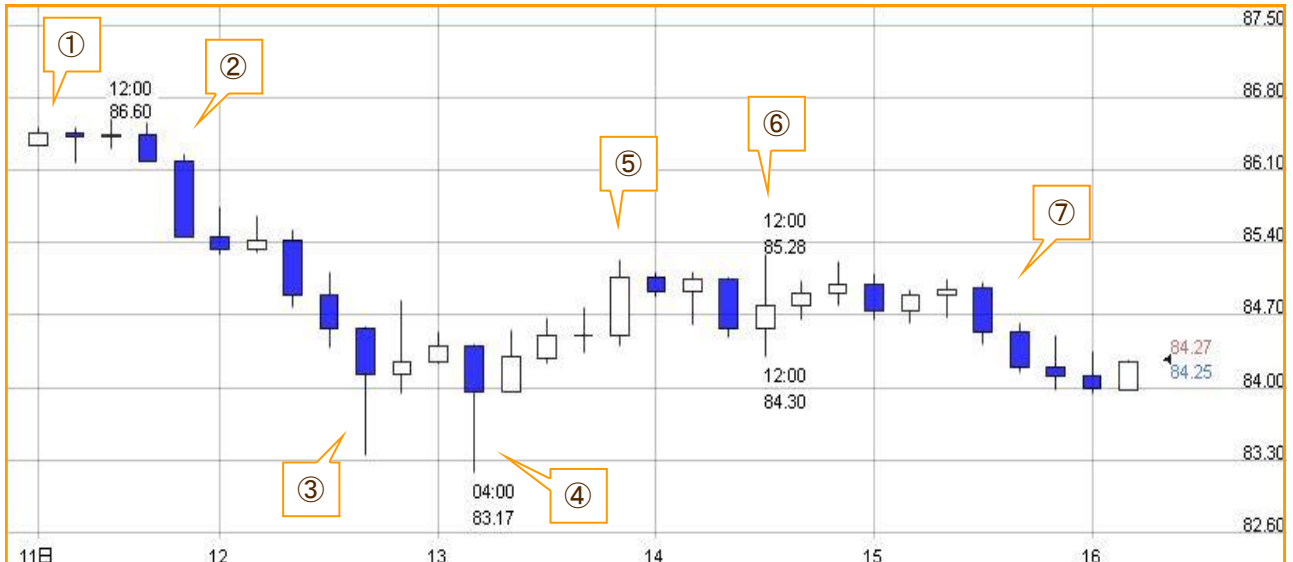


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 7/11~15の主な推移



| | |
|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>7/11 Monday</p> | <p>10日に豪ギラード首相が炭素税導入を2012年7月から導入するとの構想を伝えたことから、11日は前週末の終値より40銭以上下落してスタート(①)。欧州市場では、前週末に英FT紙が「欧州の首脳はギリシャに対する救済策の一環として一部の同国債のデフォルトを容認する用意がある」との報道が蒸し返され、欧州株の下げに連れて豪ドル/円は下落した。加えてNY市場に入り、米国の債務上限引き上げを巡る不透明感からNYダウ平均が大きく下げ、豪ドル/円は続落した(②)。</p> |
| <p>7/12 Tuesday</p> | <p>スペインの一部紙が「国内の銀行6行がストレステストに不合格となった」と報じた事や、日経平均株価を始めとしたアジアで株安が進行した事に加え、国際スワップデリバティブ協会(ISDA)が「アイルランド銀行債にクレジットイベントが発生した」との見解を示した事や、イタリア10年債利回りが1997年以来となる6%台に達した事を背景に、欧州の信用不安の拡大が懸念され、ユーロ/円が一時109.56円まで下落。連れて豪ドル/円は一時83.34円まで下げた(③)。</p> |
| <p>7/13 Wednesday</p> | <p>取引開始直後、早朝の取引の薄い時間を狙った仕掛け的な動きによるドル/円の急落につれて、豪ドル/円は3月25日以来の安値水準となる83.17円まで下落(④)。しかし同日夜、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長は議会証言にて、「刺激策が必要なら、対応する用意がある」と発言。これを受け、市場ではFRBによる追加緩和策の導入に対する期待が高まり、NYダウ平均や商品相場が上昇すると、豪ドル/円は一時85.23円まで上昇した(⑤)。</p> |
| <p>7/14 Thursday</p> | <p>ドル/円が突然急上昇したことで、市場では本邦当局による円売り介入の思惑から急速に円売りが強まり、豪ドル/円は85.27円まで上昇した。しかしその後、ドル/円の上昇は介入によるものではないとの見方が広がり、ドル/円が急落すると豪ドル/円も値を下げた(⑥)。</p> |
| <p>7/15 Friday</p> | <p>豪ウェストパック銀行が「2012年の豪州の失業率は5.5-5.75%に上昇」「年内に豪準備銀行(RBA)が利下げを行う」との見方を示した事が手掛かりとなり、豪ドル/円は下落した(⑦)。</p> |

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念
- ・豪州の利下げ観測

今週の見通し

先月より金利先物市場では豪準備銀行(RBA)の利下げを織り込む動きが続いた中、先週15日の豪銀の見通しがきっかけとなり、為替市場でRBAの利下げ観測が浮上した。また、19日に公表されたRBA理事会の議事録では、それまで使用されていた「ある時点で利上げが必要になる」との文言が外されたものの、現在の若干引き締め気味の政策が引き続き適切としたことや、今月27日に発表が予定されている豪第2四半期消費者物価指数(CPI)が政策決定の上で重要であることを伝えた。

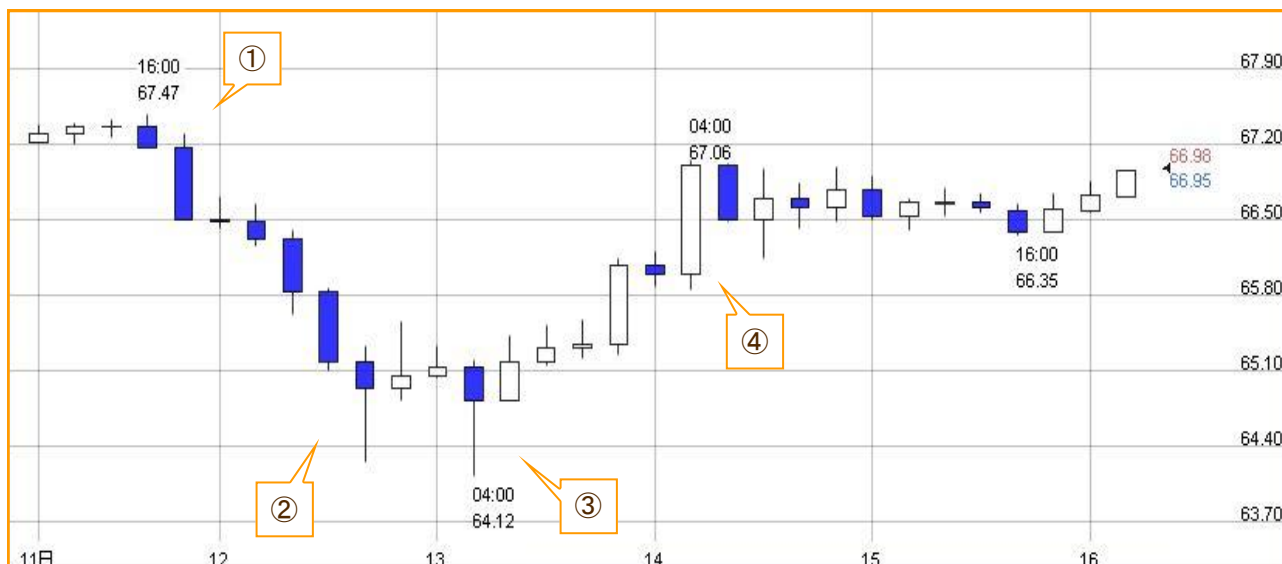
これにより、市場では依然として豪第2四半期CPIを見極めようとの雰囲気は漂っており、少なくとも豪ドル/円を積極的に買う動きは乏しいと見る。ただし、本稿執筆時点での豪ドル/円相場は84円台前半に位置しており、7/13安値83.17円に近い。もしこの安値を更新する場合、一時的に豪ドル/円の下値模索の動きが強まる可能性がある。

そのほか、今週は米企業決算が相次いで予定されており、これらを受けた米株の動向にも注目が集まりそうだ。もし予想を下回る決算が多ければ、米株が下落し豪ドル/円の上値を重くする事が予想される。先週よりNYダウ平均が弱含みでの推移を続けており、好調な企業決算が相次いで米株の下げ止まり感が出ないと、豪ドル/円の上昇には結び付きにくいと見られる。(川畑)

(予想レンジ: 82.10~85.60 円)

NZD/JPY

NZドル/円 7/11~15の主な推移



| | |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/11 Monday | 欧州市場では、前週末に英FT紙が「欧州の首脳はギリシャに対する救済策の一環として一部の同国債のデフォルトを容認する用意がある」との報道が蒸し返され、欧州株の下げに連れてNZドル/円は下落。加えてNY市場に入り、米国の債務上限引き上げを巡る不透明感からNYダウ平均が大きく下げ、NZドル/円は続落した(①)。 |
| 7/12 Tuesday | スペインの一部紙が「国内の銀行6行がストレステストに不合格となった」と報じた事や、日経平均株価を始めとしたアジアで株安が進行した事に加え、国際スワップデリバティブ協会 (ISDA) が「アイルランド銀行債にクレジットイベントが発生した」との見解を示した事や、イタリア10年債利回りが1997年以来となる6%台に達した事を背景に、欧州の信用不安の拡大が懸念され、ユーロ/円が一時109.56円まで下落。連れてNZドル/円は一時64.26円まで下げた(②)。 |
| 7/13 Wednesday | 取引開始直後、早朝の取引の薄い時間を狙った仕掛け的な動きによるドル/円の急落につれて、NZドル/円は一時5月23日以来の安値水準となる64.12円まで下落した(③) |
| 7/14 Thursday | NZ第1四半期国内総生産(GDP)は前期比+0.8%、前年比+1.4%と、いずれも予想(+0.3%、+0.5%)を大きく上回る伸びを示した。これを受け、一部ではNZ準備銀行(RBNZ)が年内に利上げを再開するとの観測が浮上。NZドル/円は発表前の水準から約80銭急騰し、67.06円まで上昇する場面が見られた(④)。 |

NZD / JPY

上昇要因 (NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因 (NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

今週の見通し

先週14日に発表されたNZ第1四半期GDPが事前予想を大きく上回ったことで、市場では震災復興による景気押し上げ期待が高まった。加えて18日に発表されたNZ第2四半期消費者物価指数が予想を上回った事から、市場ではNZ準備銀行(RBNZ)が年内に利上げを再開するとの見方が強まりつつある。NZドル/円は好調なNZの経済指標を背景とした金利先高観により、堅調な推移が予想され、7月8日につけた今年高値(67.83円)を再び試す可能性も出てきた。ただ、NYダウ平均は先週より弱含みでの推移が続いており、好調な企業決算が相次いでNYダウ平均に底打ち感が出ないようだと、市場はリスクを積極的に取る事について躊躇する事が予想され、NZドル/円の上値模索の動きは一時的となる事も考えられる。

また、テクニカル面からNZドル/円を見ると、67円の節目が軽い抵抗となりつつある。もし引値レベルで67円台に乗せられないようだと、高値を試す前に下押しの動きが先行する可能性もある。(川畑)

(予想レンジ: 66.10~68.60円)

ZAR/JPY

ランド/円 7/11~15の主な推移



| | |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/11 Monday | 欧州市場では、前週末に英FT紙が「欧州の首脳はギリシャに対する救済策の一環として一部の同国債のデフォルトを容認する用意がある」との報道が蒸し返され、欧州株の下げに連れてランド/円は下落。加えてNY市場に入り、米国の債務上限引き上げを巡る不透明感からNYダウ平均が大きく下げ、ランド/円は続落した(①)。 |
| 7/12 Tuesday | スペインの一部紙が「国内の銀行6行がストレステストに不合格となった」と報じた事や、日経平均株価を始めとしたアジアで株安が進行した事に加え、国際スワップデリバティブ協会 (ISDA) が「アイルランド銀行債にクレジットイベントが発生した」との見解を示した事や、イタリア10年債利回りが1997年以来となる6%台に達した事を背景に、欧州の信用不安の拡大が懸念され、ユーロ/円が一時109.56円まで下落。連れてランド/円は一時11.43円まで下げた(②)。 |
| 7/13 Wednesday | 取引開始直後、早朝の取引の薄い時間を狙った仕掛け的な動きによるドル/円の急落につれて、ランド/円は一時3月18日以来の安値水準となる11.41円まで下落した(③)。 |
| 7/14 Thursday | ドル/円が突然急上昇したことで、市場では本邦当局による円売り介入の思惑から急速に円売りが強まり、ランド/円は11.69円まで上昇したが、その後、ドル/円の上昇は介入によるものではないとの見方が広がり、ドル/円が急落するとランド/円も値を下げた(④)。 |

ZAR/JPY

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
- 主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・南アの利上げ観測の浮上
- ・日本の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷
- ・南アの利下げ懸念の浮上

今週の見通し

今週21日、南アフリカ準備銀行(SARB)の政策金利発表が予定されている。エコノミスト予想では政策金利の据え置きがコンセンサスとなっており、市場の関心はその際に発表される声明に集まっている。もし声明にて、今後の利上げを示唆する、もしくは南ア経済に対して強気な見方を示す場合、ランド/円は買い優勢の展開が予想される。また20日には、南ア6月消費者物価指数や5月小売売上高の発表も予定されており、その後の声明を見極める上で、これらにも市場の関心が集まりそうだ。

そのほか、今週は米企業決算が相次いで予定されており、これらを受けた米株の動向にも注目が集まりやすい。もし予想を下回る決算が多ければ、米株が下落しランド/円の上値を重くする事が予想される。先週よりNYダウ平均が弱含みでの推移を続けており、好調な企業決算が相次いで、米株の下げ止まり感が出ないと、ランド/円の上昇には結び付きにくい事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ:11.10~11.60円)

経済指標カレンダー (7/18~22)

| 日付 | 時刻 | 注目度 | 経済指標、イベント等 | 前回 | 予想 |
|------|-------|-----|---------------------------|----------|---------|
| 7/18 | — | | 東京休場(海の日) | | |
| (月) | 07:45 | ◎ | (NZ) 第2四半期消費者物価 [前期比] | +0.8% | +0.8% |
| | | ◎ | (NZ) 第2四半期消費者物価 [前年比] | +4.5% | +5.1% |
| | 22:00 | ○ | (米) 5月対米証券投資 [ネット長期フロー] | +306億USD | -- |
| | | ○ | (米) 5月対米証券投資 [ネットフロー合計] | +682億USD | -- |
| | 23:00 | | (米) 7月NAHB住宅市場指数 | 13 | 15 |
| 7/19 | 10:30 | ○ | (豪) RBA議事録 | | |
| (火) | 18:00 | ◎ | (独) 7月ZEW景況感調査 | -9.0 | -11 |
| | 18:00 | | (ユーロ圏) 5月建設支出 [前月比] | +0.7% | -- |
| | 18:00 | | (ユーロ圏) 7月ZEW景況感調査 | -5.9 | -- |
| | 21:30 | ◎ | (米) 6月住宅着工件数 | 56.0万件 | 57.5万件 |
| | 21:30 | ○ | (米) 6月建設許可件数 | 60.9万件 | 60.0万件 |
| | 21:30 | | (加) 6月景気先行指数 [前月比] | +1.0% | -- |
| | 22:00 | ◎ | (加) 加中銀政策金利発表 | 1.00% | -- |
| 7/20 | 14:00 | | (日) 5月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数] | 96.2 | -- |
| (水) | | | (日) 5月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数] | 103.6 | -- |
| | 15:00 | | (独) 6月生産者物価指数 [前年比] | +6.1% | +5.5% |
| | 17:00 | | (南ア) 6月消費者物価指数 [前年比] | +4.6% | +5.0% |
| | 17:30 | ◎ | (英) BOE議事録 | | |
| | 20:00 | | (南ア) 5月実質小売売上高 [前年比] | +9.8% | -- |
| | 21:30 | | (加) 5月卸売売上高 [前月比] | -0.1% | -- |
| | 23:00 | ○ | (米) 6月中古住宅販売件数 | 481万件 | 494万件 |
| | 23:00 | | (米) 6月中古住宅販売件数 [前月比] | -3.8% | +2.6% |
| | 23:00 | | (ユーロ圏) 7月消費者信頼感・速報 | -10.0 | -- |
| 7/21 | 08:50 | | (日) 6月通関ベース貿易収支 | -8558億円 | -1486億円 |
| (木) | 17:00 | | (ユーロ圏) 5月経常収支 | -51億EUR | -- |
| | 17:30 | ○ | (英) 6月小売売上高指数 [前月比] | -1.6% | -- |
| | | ○ | (英) 6月小売売上高指数 [前年比] | ±0.0% | -- |
| | 21:30 | ◎ | (米) 7/16までの週の新規失業保険申請件数 | 40.5万件 | -- |
| | 23:00 | ◎ | (米) 7月フィラデルフィア連銀景況指数 | -7.7 | +4.5 |
| | 23:00 | | (米) 5月住宅価格指数 [前月比] | +0.8% | -- |
| | 23:00 | | (米) 6月景気先行指数 [前月比] | +0.8% | +0.2% |
| | 未定 | ◎ | (南ア) SARB政策金利発表 | 5.50% | -- |
| 7/22 | 10:30 | | (豪) 第2四半期輸入物価指数 [前期比] | +1.4% | +1.1% |
| (金) | 17:00 | ◎ | (独) 7月IFO景況指数 | 114.5 | 113.6 |
| | 20:00 | ○ | (加) 6月消費者物価指数 [前月比] | +0.7% | -0.2% |
| | | ○ | (加) 6月消費者物価指数 [前年比] | +3.7% | +3.6% |
| | 21:30 | ○ | (加) 5月小売売上高 [前月比] | +0.3% | -- |

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

米主要企業決算予定

| | |
|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/18 Monday | IBM、ハリバートン |
| 7/19 Tuesday | コカ・コーラ、ハーレー・ダビッドソン、バンク・オブ・ニューヨーク・メロン、 バンク・オブ・アメリカ、ゴールドマン・サックス・グループ、 ウェルズ・ファーゴ、アップル、ヤフー・インク、 |
| 7/20 Wednesday | USバンコープ、ノーザン・トラスト、クラルコム、アメリカン・エクスプレス、 イーベイ、インテル |
| 7/21 Thursday | AT&T、マイクロソフト |
| 7/22 Friday | マクドナルド、ベライゾン・コミュニケーション、ゼネラル・エレクトリック、 キャタピラー |

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。